

武蔵村山市長期総合計画市民懇談会 提言書(案)

2009年12月



* 桜並木



* モノレール(子どもの絵)



* イオンモール全景

(* 印の写真は、広報所有のものから探索中)

はじめに

武蔵村山市長期総合計画市民懇談会は、平成 21 年 6 月に第 1 回市民懇談会を開催して以来、合計 7 回に及ぶ懇談会を開催し、武蔵村山市における長期総合計画の策定に向けた検討を行いました。

懇談会には市民活動団体の代表をはじめ、農業や P T A などの関係者、公募による各地域の代表が集まり、短期間にもかかわらず、討論によって市政に対する意見や要望、将来のまちづくりに向けた思いを、1 人 1 人の熱意によってまとめました。

提言をまとめていくために、2 つの部会（都市・生活・産業部会、福祉・教育・文化部会）に分かれて、分野ごとに、ハードとソフトの課題、意見、提案などについて意見交換を行いました。2 つの部会に共通するまちづくりの原点は、「地域コミュニティの再生により地域力を向上させる」こと、「武蔵村山の恵まれた自然環境と都市近郊の利便性を併せ持つ住環境とする」こと、「地域の特性を活かして、まちづくりにチャレンジする」こと、「市と市民、企業とが情報を共有し、連携する」ことを再確認しました。

市民懇談会は、市民の生の声を市政に反映するための貴重な機会でもあり、こうした共同作業を通して、私たちは市民どうしの連携を深めることができました。

この提言が、新しく策定される第 4 次長期総合計画の中に、どのような内容で、どのように取り入れられているのか、策定経過を注視していきたいと思えます。市長、市職員、市議会議員のみなさまが、市民の願いを真摯に受けとめ、未来へ希望あふれる市政を進めていただくことを切に期待しております。



平成 21 年 11 月 24 日

武蔵村山市長期総合計画市民懇談会
座長 石塚 典久

1. まちの将来都市像(キャッチフレーズ)を考えてみました。

市民懇談会では、基本計画の項目別に課題や施策に関するアイデア出しを行った後、今後のまちづくりを見据えた、将来都市像(キャッチフレーズ)について話し合いました。

これらのキャッチフレーズには、委員それぞれの思いが込められているため、懇談会案としての絞り込みは行わないこととしました。



自然を守り 人を育み 夢ふくらむまち Good Life City 武蔵村山

* 恵まれた自然環境、先代たちが築きあげた農地などを大切にしながら、未来のまちを担う子供たちを地域の中で育て、快適な生活空間と希望に満ちた、輝く都市づくりを目指します。

環境と福祉のまちづくり

* 高齢化がますます進行していく中で、自然を中心とした本市の生活環境を維持しながら、誰もが住みやすい、環境と福祉に主眼を置いたまちづくりを目指します。

豊かな自然と文化の中で次世代を担う子育てのまち

* 産業に乏しく、交通に恵まれない現状を踏まえ、それを逆に利点として、育児から学校教育まで環境施設を整えていき、子どもの養育、育成、保護の施策を高め、幼児教育、学校教育、生涯教育を一体的に組織化して、小・中一貫校化、校庭芝生化、大学キャンパス誘致等を長期的に進めていきます。

人と自然との調和を目指す文化都市 武蔵村山

* 人が人として生活しやすい環境を整備し、あわせて素晴らしい自然を保護しつつ、バランスのとれたまちづくりを目指します。

市民こそって、健康志向のまち、温暖化対策に奮闘するまち、 近郊農業を中心に地域経済の活性化を目指すまち

* これからの時代は、行政が何かやってくれるのを待つのではなく、市民から協力していくまちづくりの時代であると思います。元気な市民が一体となって、温暖化対策に取り組むとともに、様々なアイデアを取り込んだ近郊農業を展開し、地域経済の活性化を目指します。

自然輝く、安心、活力あふれる市民参加都(市) むさしむらやま

* 狭山丘陵がきらきらと輝く、安心して暮らせる、安全なまちづくり。市民全員が活動することによって、豊かな生活をつくります。

太陽と緑多くのがやく 武蔵村山市

* イオンモール、かたくりの湯、総合グラウンド、体育館など、村山の魅力はたくさんありますが、やはり太陽の輝く自然豊かな畑、緑の多いまちをPRします。

思いやり 緑織りなす 武蔵村山

* 人と自然との共生。村山大島紬の横糸に「人」、縦糸に「自然」で織りなす我がまち武蔵村山は、未来に向かって一つの魂となって進み続けます。

心を紡ぐデダラの里 四季の彩り 文化都市 むさしむらやま

* 村山大島紬の織りなす糸のごとく、子どもからお年寄りまで、市民がつながり、ふれあいを楽しむ、花、散策、温泉など健康都市を創造します。

里山と地域で育つ 未来のむさしむらやま

* 緑（農地、狭山丘陵）と地域（高齢者、人生経験者が多い）が未来の子どもたちと市を育てます。

明るい豊かな人間性 魅力ある むさしむらやま

* 明るく、楽しく、いきいきと日々の暮らしに充実感を持ち、地域の交流に参加し、大勢の人と会話をし、色々な知識を学び、役立てます。

夢と輝きをもち いきいきとした暮らしのできる都市 武蔵村山

* 緑あふれる狭山丘陵、市民のコミュニティの場であるかたくりの湯、日産自動車村山工場跡地を有効利用した生活の場、将来を夢見るモノレール。そんな自然と調和し、健康でふれあいのある都市むらやまを目指します。

狭山の恵みとふれあい都市 夢広がる快適ライフ - Welcome むさしむらやま -

* 狭山丘陵の南にあり、太陽の恵みをいっぱいを受けた村山の産物と自然、健康や子育てをテーマに大人から子どもまで生涯の生活スタイルを快適にすごせる街、住んでみたくなる武蔵村山を目指します。

2. 武蔵村山市のまちづくりにおける基本方針を話し合いました。

まちの将来都市像（キャッチフレーズ）の中のキー・ワードをもとに、今後のまちづくりにおける理念や方針について話し合いを行い、次の4つの基本方針をみんなで確認しました。



キー・ワード

子ども / 教育 / 人を育む / 豊かな人間性 / 地域力 / コミュニティ / 暮らし / 福祉 / 心を紡ぐ / 思いやり / 福祉 / 健康

(1) 地域のコミュニティを再生し、人を育み、守る、思いやりのあるまちづくりに取り組みます。

- * 多くの人々が会話をし、色々な知識を学び、役立てることで、地域コミュニティを再生し、地域の防災や防犯、福祉、環境の面においても中心となってまちづくりを進めていきます。
- * 地域を巻き込んだ教育政策など、地域と学校、家庭が一体となって、人間性豊かな将来を担う子どもたちを育てていきます。

キー・ワード

太陽 / 緑 / 恵まれた自然 / 四季の彩り / 狭山丘陵 / 環境 / 人と自然の調和 / メリハリ / 経済力 / 公共交通 / モノレール

(2) 恵まれた自然環境と都心近郊の利便性が感じられる、いきいきとした暮らしのできるまちづくりを進めます。

- * 都心近郊に位置する本市の貴重な資源である、緑あふれる狭山丘陵や先代たちが築きあげてきた農地等の自然環境を保全しながら、メリハリのある土地利用を誘導します。
- * モノレールの延伸を実現するとともに、道路網などの交通基盤を整備充実し、都心近郊での生活利便性を兼ね備えたまちづくりを行います。

キー・ワード

地域 / らしさ / 伝統文化 / 魅力 / 夢 / 輝き / 村山大島紬 / 食糧自給 / 農業振興 / 産業活性

(3) 地域の自然や文化、産業を活かし、知恵とアイデアにあふれたまちづくりにチャレンジします。

- * 様々な知恵とアイデアによって、都市型農業の活性化を推進します。
 - * 異業種間の交流等を促進することで、これまでにない新たな地域ブランドの創出を目指します。
 - * 本市の自然を舞台としたフィルムコミッション(*)の推進など、村山らしい新たな取り組みへのチャレンジ精神を大切にします。
- (*)行政等の公的機関が映画等の撮影場所誘致や撮影支援をすること。

キー・ワード

市民参画 / 民主的 / 情報共有 / 自主性 / 柔軟性

(4) 市と市民、事業者が情報を共有し、みんなで考え、行動するまちづくりを進めます。

- * まちづくりにおける様々な場面において、市が、市民が、企業が一体となってまちづくりが進められるよう、情報を共有し、柔軟な取り組みが行えるような体制づくりを目指します。

3. 基本計画の項目ごとに、課題や意見、施策のアイデアを出し合いました。

2つの部会に分かれて、後期基本計画の項目ごとに、ポストイットに様々な課題や意見、施策のアイデアなどを各自に記入してもらい、それをもとに意見交換を行いました。

ここでは、相異なる意見や考え方についても併記する形とし、懇談会としての意見の絞り込みは行わないこととしました。



- | | |
|-------------------|--------------------|
| 《0. 基本計画全般に関すること》 | 《6. 保健・医療に関すること》 |
| 《1. 土地利用に関すること》 | (1)健康づくり |
| (1)市全体の土地利用 | (2)保健医療制度 |
| (2)都市基盤整備 | 《7. 福祉に関すること》 |
| 《2. 産業に関すること》 | (1)地域福祉 |
| (1)農業 | (2)高齢者福祉 |
| (2)工業 | (3)障害者福祉 |
| (3)商業 | (4)子ども家庭福祉 |
| (4)観光 | 《8. 教育・文化に関すること》 |
| 《3. 環境・景観に関すること》 | (1)教育全般 |
| (1)自然環境の保全 | (2)生涯教育 |
| (2)水とみどりのネットワーク | (3)就学前教育 |
| (3)都市景観 | (4)学校教育 |
| (4)ごみ処理とリサイクル | (5)社会教育 |
| (5)公害対策と環境美化 | (6)スポーツ・レクリエーション |
| 《4. 都市基盤に関すること》 | (7)市民文化の創造 |
| (1)道路・交通 | (8)伝統文化・文化財 |
| (2)公園・緑地 | 《9. 交流に関すること》 |
| (3)住宅・宅地 | (1)コミュニティ活動 |
| (4)上下水道 | (2)交流事業 |
| 《5. 防災・安全に関すること》 | (3)人権擁護 |
| (1)防災対策 | (4)男女共同参画 |
| (2)消防・救急体制 | 《10. 実現に向けてに関すること》 |
| (3)防犯対策 | (1)市民参加と広報・公聴 |
| (4)交通安全対策 | (2)行政運営 |
| (5)消費者生活の安全 | (3)財政運営 |
| | (4)広域行政 |
| | (5)情報化 |

《0. 基本計画全般に関すること》

<p>主な意見</p> <p>今の総合計画は、どこの都市でも通用する内容ではないか。 「武蔵村山らしい」部分の表現が必要。 10年後の村山をイメージしていくなかで、人口の変化等がどのように想定されているのかがわからないと難しいのではないか。 開発の抑制なのか、賑わいの創出なのか、緑の保全なのか。 各施策事業の進捗率がわからないと、意見を出しにくい。 計画を策定するにあたり、検証していくことも踏まえて、目標値を設定していくことも必要ではないか。 各施策について、担当課や関連部署を示すことによって、責任の所在を明らかにすることができるとともに、横の連携がとりやすくなるのでは。</p>
--

《1. 土地利用に関すること》

1. 土地利用 / (1) 市全体の土地利用
テーマ ・都営村山団地の再生
<p>主な意見</p> <p>高齢化が進む中、都営団地のあり方についても考える必要があるのではないか。 改築時期が迫っており、空き家も多く、内装などはひどい状況のところもある。 公営住宅として整備していくのか、一部、民間に分譲していくのか。 市としてどのような対応をしていくのか。 今後、空き地になる部分について都と協議をするべき。 住民からの要望を出すべきではないか。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>住民の要望も踏まえ、市として明確な土地利用を考え、提案していく必要がある。 残地部分は、賑わい・交流のある福祉、コミュニティ施設などが良いと考える。</p>
テーマ ・狭山丘陵とその周辺
<p>主な意見</p> <p>個人の所有地も多く、虫食い状の土地利用がなされる可能性があり、一部では既に進行している箇所もある。 公園として都市計画決定されている部分の周辺が問題になる。 権利の問題もあり、市街化区域のフリンジ部分が特に問題である。 守っていく部分については、市が買い取っていく必要があるのではないか。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>崖線の部分などでは防災上の問題もあるので、斜面開発などを抑制することも必要である。 狭山丘陵周辺の明確な土地利用方針を示していく必要がある。 必要に応じて規制やルールなどを設けていく。(緑化義務など) 市街化区域のフリンジ部分であっても、狭山丘陵の緑あふれる風景を守っていく必要がある。 個人の土地なので難しい部分もあるが、家を建てる際は、緑の中に家があるようなイメージとしていくことが必要である。</p>

<p>テーマ・日産跡地の活用</p>
<p>主な意見</p> <p>「プロジェクトむらやま」ということで動いているようだが、どうなっているのか。検討過程が公開される場があるのか。</p> <p>事業者の土地であるが、広大な敷地であり、市の拠点となり得る場所でもあるので、行政や市民として何らかの要望をしていくことも必要ではないか。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>周辺住民（市民）や行政を含め、事業者と三者で協議していく場を設けていく。</p>
<p>テーマ・新旧の青梅街道沿道の土地利用</p>
<p>主な意見</p> <p>新青梅街道は、一部が近隣商業地域で、その他は第一種住居地域となっている。高層建築がないこともある意味、武蔵村山らしさではないか。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>メリハリをつけて土地利用を行う。（自然を守るところ、効果的になに利用するところ）</p> <p>新青梅街道沿道は一部を除き第一種住居地域となっているが、将来的には土地の有効活用として、高度利用の可能性を探る。しかし、景観を阻害するような高層にはしない。</p> <p>新青梅、旧青梅街道沿道地区の性格づけを行い、今後はそれをもとに沿道型まちづくりの検討する。（新：車中心、大型店舗を活用／旧：人中心、昔ながらの商店を活用）</p>
<p>テーマ・総合体育館北側の土地の有効活用</p>
<p>主な意見</p> <p>現在は体験学習広場（キャンプ場など）として利用し、暫定利用となっているようだ。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>今後の利用方法については、市民も一緒になって提案していく必要がある。</p> <p>オーナー制の植樹を行えるようにする。</p> <p>市民による管理について検討する。</p>
<p>テーマ・文化・教育機関の充実</p>
<p>主な意見</p> <p>教育機関の誘致は、財政的なメリットが薄いのではないか。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>大学キャンパスを誘致する。</p> <p>人の流れも生まれ、周辺の活性化にも繋がる。</p> <p>東京経済大学のプールなどが開放されている例もあるので、周辺住民に対する効果も期待できる。</p>

1 . 土地利用 / (2) 都市基盤整備
テーマ ・多摩都市モノレールの延伸整備
主な意見 延伸の可能性はあるのか。現状を見ると、可能性は低いのではないか。
具体的な提案 市の活性化や人の動線を確保という点からもモノレールの延伸は重要である。
テーマ ・3つの核
主な意見 市内に核となるような場所がないのが問題である。 市内に3つもの核が必要だろうか。 地域バランスという視点でみると中央・東・西ということになるのではないか。 サブ核(西部地区)等については、進捗状況など最新の情報提供がほしい。
具体的な提案 市の活性化やこれまでの方向性から見ても3つの核の整備(3駅周辺の拠点づくり)は必要である。
テーマ ・新青梅街道の整備
主な意見 公共交通の普及も進まない中、自転車は市民の足として重要である。しかし、新青梅街道は自転車で走るには危険な場所が多い。 新青梅街道の整備は東京都に頼る部分になってしまう。しかし、身近な道路についても同様の課題がある。
具体的な提案 都道であっても、利用する市民の視点から提案できる検討の場を設ける。 安心して歩行、通行ができる新青梅街道の道路整備が必要である。 市民の生活道路である身近な道路整備が必要である。

《2. 産業に関すること》

2. 産業 / (1) 農業
テーマ ・農地の有効利用
主な意見 生産されていない農地があるようだが、そうであるならば、別の利用方法もあるのではないか。 秋に向けた休養地であるので、農地として利用されていないわけではない。 良好な農地が宅地化されるのを食い止める必要があるのではないか。 都市農業ならではの難しさがある。農地の維持を農家だけに押し付けていくのでは難しいのではないか。
具体的な提案 休耕地対策（市民農園、ボランティアなどによる援助など）が必要である。 継続できるような援農体制づくりやサポートが必要。 農業は市の重要産業でもあり、経済政策として行っていく必要がある。 農業による税収アップにつなげる。 都市農地については「環境面」「防災面」での重要性があるため、都市計画的な保全策が必要である。
テーマ ・地産地消の推進
主な意見 地元産の野菜等を安く提供できないのは何故か。 単に安くすればと良いということではない。良いものをつくっている農家もある。 農家を大事にする、守っていくという視点も必要ではないか。（ただし、単に優遇措置を設けるということではない） 農家が積極的に取り組むことは難しいのか。 原価計算が難しい産業であるため、簡単にはいかない点もある。 全国的にも様々な取り組みが行われており、新たな農業特産物を生み出すような武蔵村山らしいアイデアを出すことが必要である。
具体的な提案 地元産の農産物を、小中学校の給食に顔の見える食材として提供する。 農業関係者と消費者や行政を含めた定期的な連携の場が必要である。 「（仮称）援農公社」を設け、農業従事者だけではなく、農業ボランティア等の参加が図れるような仕組みをつくる。 地元産小麦を復活させる。 うどんマップなどを活用するなど、地域に埋もれている名物のPRを行う。

2. 産業 / (2) 工業

テーマ・工場の誘致

主な意見

大型トラック等が通れる道路がないため、工場誘致に繋がっていないのではないか。
市が主体的に行えることがあるのではないか。

具体的な提案

工業地域としていくための環境整備等が必要である。
税制優遇や助成制度などを創設し、産業誘致を積極的に進めることで、地元雇用を創出する。

テーマ・市の地域ブランド

主な意見

市内には様々な工業関連の会社があるが、特に接点はないのではないか。
市がサポートということで援助できる体制をつくってはどうか。

具体的な提案

異業種間交流や市民からアイデアを募り、市内で新たな商品開発に取り組む。(障害者用の椅子、村山大島紬の活用など)

2. 産業 / (3) 商業

テーマ・市民ニーズにあった店舗構成

主な意見

イオンモール内の大きなテナントの撤退後は、大型電気店の施設になるようである。果たしてそれは市民ニーズにあっているのか。
高齢化問題に対応した店舗の配置等があるのではないか。
市内の商業のためには、店舗間競争による活性化も必要ではないか。
「一店逸品」をPRする冊子がつくられているが、あまり知られていない。

提案内容

市民ニーズにあった施設誘致を要請してくることが必要である。
半径250mくらいの場所に日用品や生鮮三品の店舗が存在できるような環境整備が必要である。(大型商業施設を拠点として、小拠点を点在させる)
「一店逸品」を広くPRするとともに、その場所に行ったら全てが揃っているというような「村山銀座」をつくる。

2. 産業 / (4) 観光

テーマ・イベントの実施

主な意見

観光資源である野山北公園などもあるが、アクセスが悪い。

具体的な提案

野山北公園周辺のウォーキングイベントを拡大する。(西武鉄道と連携も検討)
観光資源を点(スポット)として捉えるのではなく、広がりのあるゾーンとして捉えていく。

観光資源と駅を結ぶところに“あじさいロード”としてその行き帰りも楽しんでもらう仕掛けをつくる。(市民の協力が必要)

テーマ・身近な観光資源の活用

主な意見

市民の暮らし等の身近なものも観光資源となるのではないか。

具体的な提案

「暮らしを見る」をテーマに新たな観光スタイルを考える。
フィルムコミッションを推進する。(映画、ドラマロケーション支援)

テーマ・拠点の活用

主な意見

市内にいくつかの拠点があるが活用されていない。
案内などPR不足のため、一つの場所にしか滞在してくれないのではないか。拠点間で連動することが必要である。

具体的な提案

いくつかの拠点を中心に回遊ネットワークをつくり、またそれをPRしていくシステムをつくる。

イオンモールにレンタサイクルを置き、自転車で市内を回遊できるようにする。(野山北公園など)

起点となる拠点施設(イオンモール)などに、観光案内サインを置き、周遊できるようにする。(国分寺などを参考にしているかどうか)

イオンモール内に市をPRする施設をつくる。

拠点施設(イオンモールなど)までのアクセスを充実させる。

《3. 環境・景観に関すること》

3. 環境・景観 / (1) 自然環境の保全	
テーマ	・ 狭山丘陵の活用
主な意見	デエダラボッチの井戸が涸れており、何とかしなければならない。
具体的な提案	狭山丘陵については、自然の保全に加え、貴重な観光資源として、より有効に活用できるように考えていく。
テーマ	・ 地球温暖化防止への取り組み
主な意見	市民、事業者、行政が一体となって地球温暖化防止に積極的に取り組むべきである。

3. 環境・景観 / (2) 水とみどりのネットワーク	
テーマ	・ 水辺環境の保全
主な意見	残堀川の水辺空間は雑草が多く、流れる水の量も少ないなど、良好な水辺環境とは言い難い。 残堀川にホタルが飛ぶ姿がみたい。
具体的な提案	残堀川、空堀川の支流として多くの水路がある。これらの水辺環境を守りながら親しめるような親水空間として整備する。 河川を整備する際には、利用する市民が参加できるような検討の場を設ける。 透水性舗装や雨水浸透柵の整備により、水を地中に戻し、河川の流水量を増やす。
テーマ	・ 市民協働で行うみどりのネットワークづくり
主な意見	みどりや花などは住宅の中などにもみられるが、統一感が無いように感じる。
具体的な提案	地区別に生け垣として活用する樹木や花(サザンカのまち、シクラメンのまち等)を統一できるよう市民に協力を求める。(生け垣の助成金制度を活用) 並木のある町(道)をつくる。 高木の街路樹の下部に低木の花や木を植える。(市民も協働) 各地域ごとに四季折々の緑、花を植える運動を推進する。さらに緑のネットワークを形成することも視野に入れる。 住宅や農地の道端に花を植え(プランター)、連続することにより魅力ある生活道路を創出する。(花の咲くみち)

3 . 環境・景観 / (3) 都市景観

テーマ・景観づくりへの啓発

主な意見

良い景観とはどのようなものかを多くの人に知ってもらうことが大切ではないか。

具体的な提案

より良い景観づくりへの啓発活動を目的とし、良い景観の建物やみどり、生け垣などを表彰する「景観デザイン賞」を創設する。(都市景観、緑地景観など)

テーマ・景観の保全

主な意見

武蔵村山市には高層建築は必要ないのではないかと。高層建築がないのが武蔵村山らしさではないか。

具体的な提案

良好な都市景観を保全していくために、地区計画制度などを積極的に活用する。

3 . 環境・景観 / (4) ごみ処理とリサイクル

テーマ・ごみの減量化と活用

主な意見

今、ごみの分別収集が行われているが、なかなか完全には守られていないようである。

具体的な提案

ごみゼロ運動を推進する。家庭ゴミを減量していく。
「ごみは資源」として意識を啓発していく。

3 . 環境・景観 / (5) 公害対策と環境美化

テーマ・モラルの向上

主な意見

ごみの不法投棄などは、モラルの問題が大きい。

具体的な提案

パトロールを徹底するなど、不法投棄の防止を強化する。

〈4. 都市基盤に関すること〉

4. 都市基盤 / (1) 道路・交通
テーマ ・歩道の安全対策
<p>主な意見</p> <p>歩車道の高低差により、通行の妨げになっているところがある。(車椅子や自転車など) 高齢者や子どもなどが転んでしまう危険性がある。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>車椅子やベビーカーなどの通行の妨げになる、電柱や標識、カーブミラー等を移動し、安全に歩ける歩道空間を確保する。</p> <p>歩道が狭く、車道との高低差が大きい場所では、車道側への転倒の危険性の高い区間の改善を行う。</p> <p>幅員が狭く、交通量の多い通り(例:大南のスーパーさえき~湖南処理場など)での歩行者の安全確保に努める。</p> <p>見通しの悪い交差点の解消や、小学校周辺の通学路の安全を確保していく。</p> <p>道路の凸凹をなくすため、バリアフリー化を推進する。</p>
テーマ ・歩車の共存
<p>主な意見</p> <p>歩道が狭いと、自動車や自転車をずっと気にしながら歩かなくてはならない。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>病院、図書館、公民館、公園、商店街、スーパー等の集客施設があり、人や車の通行が多い道路では、歩行者、自転車、自動車が共存できる魅力あるみちとなるよう、コミュニティ道路としての魅力づけを行う。((仮称) らいつかふれあいロード:医療センター~団地いなげやまでの区間)</p>
テーマ ・自転車利用の活用
<p>主な意見</p> <p>野山北自転車道について、広く周知していく必要があるのではないか。</p> <p>青梅街道など、自転車で通行するには危険な道路もある。</p> <p>自転車については、健康等の視点からも有効ではないか。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>残堀川沿いの自転車道のネットワークを形成する。</p> <p>既存の自転車道を軸に自転車走行帯の確保(ペイントなど)により、安全に走行できる自転車ネットワークを形成していく。((仮称) むらやまりんりんロード)</p>
テーマ ・巡回バスのルート設定
<p>主な意見</p> <p>市民ニーズにあってないように感じている。(西部の方面から市役所間、西部方面から市総合センター間などの区間)</p>
<p>具体的な提案</p> <p>巡回バスの運行ルートについては、市民ニーズにあわせて見直しを行う。</p>

4. 都市基盤 / (2) 公園・緑地

テーマ・市民が楽しめる公園づくり

主な意見

狭山丘陵など大きな緑地はあるが、歩ける範囲（概ね 250m 圏）の公園についてはあまり充実していない。

具体的な提案

親子で気軽に利用できる公園、緑地を整備する。（簡単に歩ける範囲内）
公園整備等による更新の際には、計画段階から市民が関わり、「市民が利用しやすい・楽しめる公園」について一緒に考えていく。
近所に利用できる公園を整備し、公園利用の不便地域をなくしていく。（大規模な公園ではなく、近所の公園単位で）

テーマ・スポット緑地の整備

主な意見

散歩やサイクリングの途中に少し休むことができる場所があると良い。

具体的な提案

サイクリングや散歩の休憩場所としても活用できるような、ポケットパークを整備する。（みどりのネットワーク化も視野に入れる）

4. 都市基盤 / (3) 住宅・宅地

テーマ・宅地開発指導の徹底

主な意見

住環境を維持していくためにも、宅地開発の指導を徹底してほしい。

具体的な提案

宅地開発指導を徹底し、道路幅員の確保など居住環境の水準を維持していく。
まちづくり条例により、計画的な宅地化を誘導する。

テーマ・武蔵村山らしい住宅

主な意見

これから高齢化がより一層進んでいく中で、武蔵村山らしい住宅のあり方についても考えていくべきである。

具体的な提案

年齢、職業、所得の状況などに拘らず、いろいろな人達が交流をしながら同じ地域で暮らしていけるような環境を整備する。（ソーシャルミックス）
多世代が住めるような住宅環境をつくっていく。
緑を核とした住宅の形成に努める。（菜園付き住宅、共同菜園付き住宅など）

《5. 防災・安全に関すること》

5. 防災・安全 / (1) 防災対策
テーマ ・地域コミュニティの形成と個々の能力向上
<p>主な意見</p> <p>「自助」「公助」「共助」の精神が必要ではないか。 地域の初期災害については、地域住民で対応できる対応できるようにしてはどうか。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>小学校単位での防犯・防災コミュニティを充実させる。 防災訓練を地域単位で実施していく。 地域の初期災害に対応できるような組織づくりが必要である。 災害時コミュニティーネットワークの形成 市民の防災能力の向上に努める。 普通救命講習（中学生以上） 上級救命講習（成人、市、防災組織対象）の実施</p>
テーマ ・危機管理の体制づくり
<p>主な意見</p> <p>地域の初期災害については、地域住民で対応できるようにしてはどうか。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>災害対策時における、関係組織の連携を強化する。 市、消防、警察、医療機関、電気、ガス、水道などの多様な組織間の迅速かつ柔軟な連携体制の確立。 新型インフルエンザなど、新たな感染症への対応を強化する。 未知のウィルスによる感染拡大の防止対策の検討。</p>
テーマ ・安全のための施設や河川の整備
<p>主な意見</p> <p>大雨などの際に、小さな河川は水量が対応できていない。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>災害時の拠点となる公共施設の耐震化を促進する。 防災拠点の装備充実と避難路の確保に努め、これを広報等により市民に周知していく。 ゲリラ豪雨などに対応できるような河川整備を促進する。 安全・安心のためにも、消防・救急活動に支障が出ないように、狭小道路の整備を行う。</p>
テーマ ・情報提供の充実
<p>主な意見</p> <p>コミュニティ形成の第一歩として、近隣に住んでいる人を知る事が必要ではないか。 防災放送が聞こえない箇所がある。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>危険箇所の把握のためにハザードマップを作成する。 震災時、危険と思われる場所を事前に把握し、改善していく。 倒壊の可能性のある建物、ブロック塀、危険物を扱う施設などの状況を把握する。 要救助者リストを作成する。 ハンディキャップを持つ人、単身高齢者など要救助者を把握する。</p>

5 . 防災・安全 / (2) 消防・救急体制
テーマ ・世帯単位での消防対策
主な意見 一般家庭にも火災報知器の設置が義務づけられるということである。
具体的な提案 家庭用火災報知器や家庭用消火器の設置普及に努める。 購入補助等による普及拡大
テーマ ・救急体制の充実
主な意見
具体的な提案 救急搬送体制（特に小児科、産婦人科）を強化する。 休日・夜間急患診療所の設備向上に努める。 身近な急患診療所の機能の向上
テーマ ・消防団の充実
主な意見 消防団の活動が地域単位で差があるように感じられる。
具体的な提案 消防団員の確保とそれをサポートする体制づくりを行う。

5 . 防災・安全 / (3) 防犯対策
テーマ ・明るいみちづくり
主な意見 街灯の明るさ（照度）が統一されていない。（中原地区は水銀灯で明るい、三ツ藤は蛍光灯で暗い、残堀川の片側も暗い）
具体的な提案 歩行者にとって支障のないような明るいみちづくりを行う。（防犯にもなる） 街路灯や防犯灯だけでなく、各住戸の門灯を灯火させることにより、不審者の侵入や不法投棄を抑制する。
テーマ ・市民活動による防犯対策
主な意見 地域コミュニティを高めることが、防犯対策につながるのではないかと。
具体的な提案 自治会活動などの地域コミュニティ（地域力）を強めて、監視力を高める。 青少年の非行防止対策（暴走行為、万引き、悪質ないたずらなど） 地域防犯活動を推進する。 学童の登下校時にあわせた見回りや犬の散歩の実施。また、夜間パトロールやウォーキングの実施など

テーマ ・防犯関連情報の共有
主な意見 最近、全国各地で多くの犯罪報道を耳にし、子どもを持つ親として不安である。
具体的な提案 過去に犯罪などが起きた場所や危険性のある場所の把握と改善策を検討する。 変質者が出没した場所、暗闇や茂み、空き家などの場所の把握 不審者出没マップ、死角マップなどを作成する。

5 . 防災・安全 / (4) 交通安全対策
テーマ ・歩行者の安全確保
主な意見 歩道上の電柱により、歩行者や車椅子が通れない状態である。 歩道がないところや狭いところがあり危ない。 植栽帯により、歩道の幅が狭くなり、歩行者にとって歩きにくいところがある。(村山診療所付近の歩道など)
具体的な提案 都市基盤と教育の両方の視点で交通安全対策を進めていく。 安全な歩行空間の確保に努める。 歩行者ネットワーク形成のための改善箇所の調査 見通しの悪い交差点の解消に努める。 カーブミラーだけでなく、隅切りによる改良 歩道上の電柱の改善に努める。 道路幅員に応じて、自転車通行帯を整備する。 場所によって工夫が必要になる。江戸街道では白線が消えたままになっている。
テーマ ・自転車対策
主な意見 自転車による暴走行為、二人乗り、飛び出し、運転中の携帯電話利用等が危険である。 放置自転車が多い。
具体的な提案 自転車マナーの徹底と、取締りの強化が必要である。 放置自転車を撤去するとともに、引き取りのない自転車の再利用を考える。(レンタサイクルなど)

5 . 防災・安全 / (5) 消費者生活の安全

テーマ・積極的な情報提供

主な意見

悪質な販売業者がいるようなので対応していく必要がある。

具体的な提案

賢い消費者育成のため、行政による積極的な情報提供や勉強会を実施する。

狙われやすい高齢者や障害者を守る仕組みをつくる。

生活を守るための迅速な情報提供を行う。

訪問販売、呼び込みイベント販売、催眠商法、悪質な販売業者手口など情報の提供と対応策

テーマ・事業者への啓発活動

主な意見

食の安全、商品の安全、良質なサービスの提供が求められる。

《6. 保健・医療に関すること》

6. 保健・医療 / (1) 健康づくり	
テーマ ・保養施設の広報活動	
主な意見 市民保養施設等は良く利用している。体育協会等では、姉妹都市の栄村等へ数十人単位で訪れ、親切に迎えられている。 特に補助があるので、良い制度である。	
具体的な提案 栄村の良いところを具体的に広報などで宣伝する。	
テーマ ・運動施設の充実	
主な意見 室内プール（競技用）を増やしたい。	
具体的な提案 室内プールの整備を行う。	
テーマ ・地域の健康増進拠点づくり	
主な意見 小学校などの体育館やプールの老朽化による建て直し時期にあわせ、地域の健康増進に利用できる施設としてリニューアルを図る。	
具体的な提案 地域の健康増進センターを整備する。 体育館や多目的室は地域住民の健康増進や学習の場として開放する。 管理は運営協議会を組織し、自主管理体制とする。 夏季は屋根を開放した屋外型、冬季は室内型となる開閉式ドーム型のプールを設ける。	
6. 保健・医療 / (2) 保健医療制度	
テーマ ・病院の駐車場	
主な意見 病院に駐車場が少なく、いつも満車状態である。 コミュニティバス西ルートがルート変更され、病院を通らなくなって不便になった。 大和病院の駐車場は有料、村山病院の駐車場は無料のため、村山病院に駐車し、病院間の無料バスを利用している。	
具体的な提案 イオンモールの駐車場は平日には空きがある。病院と共有化するなど、有効利用について関係機関と検討する。	

テーマ・医療制度

主な意見

政策評価の中で、「妊婦健康診査の充実」とあるが、診療代が無料になると聞いたが本市ではどのように考えているのか。

今年度から妊婦健康診査が合計 14 回無料となる。

《7. 福祉に関すること》

7. 福祉 / (1) 地域福祉
テーマ ・ 専門家の充実
主な意見 福祉士の養成専門施設を増やす。
具体的な提案 指定管理者制度を利用し、募集する。

7. 福祉 / (2) 高齢者福祉
テーマ ・ 高齢化・ 一人親
主な意見 村山団地では特に高齢化の進行が問題である。 村山団地にはひとり親や外国人が多く、それらの福祉はどうなっているのか。
具体的な提案 バス停に椅子や屋根をつくり、ゆっくりバスを待てるようにする。
テーマ ・ 高齢者医療制度の充実
主な意見 70歳以上の高齢者福祉について充実する。 後期高齢者医療制度を廃止し、高齢者の保健・医療費の無料化を進める。
具体的な提案 制度の案内説明等を高齢者にわかりやすく伝える努力を行う。

7. 福祉 / (3) 障害者福祉
テーマ ・ 障害者への理解
主な意見 障害者の自立の場が少ない。 働ける場があっても賃金が安い。
具体的な提案 障害者のできる範囲を理解し、働ける場の提供に努める。
テーマ ・ 集団生活等の場
主な意見 障害者の保護者の高齢化が進み、一人での生活が不安である。
具体的な提案 グループホームを設置し、集団生活しながら、ホーム内でのレストラン経営など働く場を提供する。

7. 福祉 / (4) 子ども家庭福祉

テーマ・子どもの放課後活動

主な意見

村山団地は3つの学区で構成されている。団地の建替え等で住む場所が変わり、学区が変わる等がある。

事例として、小平市では小学生にICチップが組み込まれた物を持って、親が携帯等で子どもの行動等の情報を受けることができるシステムがある。

学童クラブは、小学校3年までを対象に有料で午後6時まで預かってもらえる。

放課後教室は、学校の空き教室を借りて、子どもたちを預かるボランティアの方が面倒を見ている組織である。

学童クラブや放課後教室等から帰宅時、特に冬の時期が心配である。

学童クラブは現在10の施設があり、500名が登録しているが、空きが無く、待っている方が多くいる。

団地やマンション等で、新しい住人が自治会に加入してくれないことがある。

具体的な提案

高齢化が進行する中、高齢者の協力を得て、帰宅時の迎えなどができるようなシステムづくりが必要である。

転居者の自治会加入を推進することにより、地域のコミュニケーションが高まり、孤独死等も減ってくる。

《 8 . 教育・文化に関すること》

8 . 教育・文化 / (1) 教育全般
テーマ ・ 家庭教育としつけ
主な意見 新生児の時は相談にくるが、2～3才児に対する教育やしつけ等、相談できる場や相手が不足している。 未熟な父親・母親向けの子ども教育の充実が必要である。 特に、親の低学年のしつけの仕方等、親の研修する場や相談する相手が不足している。 学校の教育より、家庭教育（しつけ）の問題が大切である。
具体的な提案 子育てセンター（相談機能等）を充実させる。 保健婦や民生委員さんたちのサポート活動を推進する。 世代を交えての懇談の場をつくる。
テーマ ・ 食育の充実
主な意見 始業前の家庭で「朝食」を必ずとって登校させるようにすることが大切である。 地元の食材での食育が大切である。（体験農園等）
具体的な提案 子どもたちへの体験農園等の高齢者ボランティア（給食センター含む）の参加等、世代を交えたサポートを行う。 子ども農園で作った作物を給食の食材として使うことで、食育を充実させ、好き嫌いを無くす。
テーマ ・ 教育政策の再構築
主な意見 教育政策として様々な取り組みが行われている。
具体的な提案 学校教育、社会教育活動、生涯学習を一体化した教育政策を再構築する。
8 . 教育・文化 / (2) 生涯教育
テーマ ・ 図書館の活用
主な意見 図書館は、児童・生徒の学習・研究・読書のみならず、社会教育、生涯学習の場として、市民全体に輪を広げることが必要である。
具体的な提案 図書館の閉館時間を最低7時まで延長する。

8. 教育・文化 / (3) 就学前教育

テーマ・地域ニーズに合った保育園等の充実

主な意見

保育園待ちの子どもが多く、半年待ち等も見られる。
就学前の教育としつけが大切である。

具体的な提案

「保育園」や「認定こども園」の整備を推進する。(大南地区へ)

8. 教育・文化 / (4) 学校教育

テーマ・教育体制

主な意見

学力・体力低下が著しい。
不登校の児童・生徒への何らかのフォローが必要ではないか。
テレビ、ゲームの画面を見ることが多い。もっと会話や本を読ませる等が必要である。

具体的な提案

1学級の人数が多く、30人学級へ移行する。
低学年は担任2名制(副担任)制度を導入する。
1年間の授業時間を増やす。(私学では土曜日も授業を行っている。)

テーマ・専門家の充実

主な意見

文化部や体育部のクラブ活動を活発にしたい。
泳げない子どもが増えている。

具体的な提案

小学校の体育指導について、外部指導者を導入する。
体育専門の先生等による水泳指導を行う。
小・中学校への体育・文化の指導者を増員する。

テーマ・市を特徴づける教育の戦略的目標

主な意見

小・中学校におけるメイン研究テーマを最低5年間は「基礎学力の向上」(国語・算数等)とする。他のテーマをあわせて取り上げるにしても、児童・生徒・教師の負担が多大にならないようにする。

具体的な提案

長期的には、「全市小中一貫校化」を推進する。

テーマ・小学校教育環境整備（ハード面）

主な意見

特別教室（家庭教室）はテーブルしかなく、料理実習等の準備に時間や手間がかかるため、コンロ（IH型）や水道の設備が欲しい。
年々、夏の暑さが厳しくなっており、夏季休暇は必要なくても、6月下旬と9月中は熱中症の心配もあり、冷房が必要ではないか。
校庭の芝生化が市内でも順次進められているが、校庭は地域に開放しており、野球チームやサッカーチームの利用面から、全面芝生化ではなく、地域住民や関係団体と協議し計画していくことが必要である。

具体的な提案

- 小・中学校の施設の充実と平準化を進める。
- ・校庭の自動散水装置、屋上緑化、クーラー・冷水機の設置
- ・会議等ができる多目的ルームの設置

テーマ・小学校教育学力等向上（ソフト面）

主な意見

少人数制専門クラスの拡大

現在、算数の授業は個々の能力にあわせて少人数による授業を行っているが、今後は国語力の向上を図るため、専門クラスの拡大が必要である。

低学年向けのチームティーチング（1年生対応専門家による支援）

小学校入学時、子供たちはまだ小学校の環境や授業にとまどいが多く、先生1人にかかる負担も大きく、児童全員への指導が徹底しにくい。このため、入学後6ヶ月間は、保育士や幼稚園教諭の資格を持つ補助指導員を雇用し、児童教育面から担任を支援するチームティーチングを導入していく。後期6ヶ月、補助指導員は、自閉症、注意欠陥、多動性障害など軽度精神障害の児童をマンツーマンで支援する。

家庭学習の徹底

学校の授業だけで学力を向上させることは難しい。このため、家庭における学習機会の必要性と徹底について、保護者に理解と協力を求めることが必要である。

自己管理能力の向上

小学生時代は、自己管理能力や生活習慣を身につける大事な時期であるため、家庭のしつけを徹底するとともに、社会においてやっていいこと、悪いことの判断ができる教育プログラムを検討していく。そのためには、地域の祭りや様々な行事などを通じて、多種多様なコミュニケーション機会を増やしていくことも重要となっている。

家庭における一家団らん

最低でも週1回は家族全員で食事する。親も子も同じ時間、空間で会話しながら食事することは家庭の原点と考える。

インフルエンザ対策

衛生的な石鹸を置いてほしい。

具体的な提案

ICタグを活用した児童の安心安全確保システムを導入する。

児童の行き帰りの通学時間情報を保護者に通知するICタグの導入を図る。児童が校門を通過する時間を保護者の携帯電話にメールで知らせることができるシステムの導入。

テーマ ・自転車通学
主な意見 中学校選択ができるが、通学手段について自転車通学の許可はいつから可能となるのか。また、バス通学の学割はあるのか。 子どもが自転車に乗るときはヘルメット着用が良いのでは。
具体的な提案

8. 教育・文化 / (5) 社会教育
テーマ ・中央図書館の整備
主な意見 武蔵村山市には他市と比べて中央図書館（本・映像・CD・メディア他）のような施設がない。
具体的な提案 市民の教養を高める大事な施設である中央図書館を整備する。
テーマ ・市民の集う場の整備
主な意見 集う場所が少ない。会議室や運動ができる場を増やす。 市民の集う場所はあるが、効率が悪い。
具体的な提案 会館等、休みの日も会議室等はオープンにする。 利用時間を午前（4時間）・午後（4時間）を2時間単位にするなど利用しやすくする。

8. 教育・文化 / (6) スポーツ・レクリエーション
テーマ ・プールの整備
主な意見 室内プール（競技用）を増やしたい。
具体的な提案 室内プールを整備する。
テーマ ・施設の管理運営の工夫
主な意見 運動場はあるが草がぼうぼうと生えているため、グランドゴルフができない。
具体的な提案 市民参加型の管理の推進や自治会での管理等の体制づくりが必要である。

8 . 教育・文化 / (7) 市民文化の創造

テーマ・市民音楽祭の開催

主な意見

市全体での音楽祭はあるのか。

具体的な提案

子どもから高齢者等、様々な人や団体が参加できる市民音楽祭を開催する。

8 . 教育・文化 / (8) 伝統文化・文化財

テーマ・伝統文化の担い手の育成

主な意見

おはやしやたいこ等、地域の伝統文化を子どもたちに継承していく必要がある。
伝統文化の担い手が高齢化してきている。

具体的な提案

子どもたちや若者へ文化を継承していくための制度や補助を設ける。
伝統文化を発表する場をつくる。

《9. 交流に関すること》

9. 交流 / (1) コミュニティ活動	
テーマ ・新旧住民の対話	
主な意見 自治会加入率が減少傾向にある。 地元と新住民との間に価値観や生活様式の違いがあり、積極的に加入を推進し、魅力ある活動に広げていく努力が必要ではないか。 新・旧住民の対話を積極的に行う必要がある。	
具体的な提案 お祭等には参加しているので、その時に自治会への勧誘などを行う。 親子で参加できるレクリエーションを手づくりで行う（ハイキング、ウォーキング、手芸、ものづくり等） 旧住民や旧街道沿いに存在する屋号紹介や武蔵村山市の独特な地名等を知ってもらえるようなおもしろマップ等を作成しPRする。（プリンスの丘公園等）	
テーマ ・村山デェダラまつりへの参加	
主な意見 小中一貫を機会として学校単位でデェダラまつりへ参加し、地域のコミュニティ活動を高める。	
具体的な提案 ねぶた山車を学校単位で参加し、お祭を盛り上げていく。	
9. 交流 / (2) 交流事業	
テーマ ・交流施設の拠点整備	
主な意見 温泉施設の「かたくりの湯」は市外からの利用者が多く武蔵村山市をもっとアピールできるのではないか。 長野県栄村との交流事業を増やしてほしい。（体育・文化・宿泊施設） 宿泊施設が少ない。	
具体的な提案 温泉施設「かたくりの湯」を交流の中心施設とし、利用者との多様な交流を行うために宿泊施設や道の駅等の施設を整備する。 交流事業として農家と直結した市営のコミュニティレストラン（市民・農業・農地に近い場所）を整備する。	

9 . 交流 / (3) 人権擁護

テーマ・相談窓口の充実

主な意見

悩みを抱いている人が増えているが、相談先が良くわからない。
相談しようとする内容によっては電話相談ができるようにしてはどうか。

具体的な提案

電話による相談を市内でできるシステムを整備する。
イベント等による啓発活動を行う。

9 . 交流 / (4) 男女共同参画

テーマ・自治会の女性部の設置

主な意見

女性の自治会役員への進出が少ない。

具体的な提案

自治会組織の中に女性部を設置する。

《10. 実現に向けてにすること》

10. 実現に向けて / (1) 市民参加と広報・公聴
テーマ ・集会施設の充実
<p>主な意見</p> <p>図書館や集会施設など、機能が充実した施設がほしい。</p>
テーマ ・情報システムの多様化
<p>主な意見</p> <p>情報提供手段として、ホームページが多く採用されているが、パソコンが使えないお年寄りも多く、市報が果たしている役割は大きい。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>市報の中に各自治会を紹介するコーナー等を組み込む。(地域の紹介) 市のホームページの文字を簡単に大きくできるような仕組みとする。</p>
テーマ ・市政への積極的な市民参加
<p>主な意見</p> <p>市議会の議論に市民の意見を取り入れるシステムがないため、討論に発展性がない。市民が参加した委員会などから出された提言書や意見書などが、それぞれの計画に活かされていないように感じる。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>施策の意思形成過程に市民を参加させる。 市民参画による事業仕分けを行う。 税金を使うべき事業かどうかの判断 市民協働型の新しい公共サービスを検討する。 計画策定において、市民意思の反映と監視するシステムを検討する。</p>
テーマ ・市民の自主性の確立
<p>主な意見</p> <p>もっと市民が自主性をもってまちづくりに参加できる機会があった方が良いのでは。</p>
<p>具体的な提案</p> <p>地域まちづくり懇談会を設置する。(定例形式) 自治会への加入問題、地域で出来る公共サービスの検討、地域力の向上に向けた活動支援等 市民参画プラットフォームを構築する。 市民参画の核となる場づくり、市民団体の情報、交流の場づくり、個々のニーズにあった市民参画探しの場 まちづくりフォーラムを開催する。 市民参画型まちづくりの情報提供や市民懇談会の経過報告、提言書、意見書の反映等への対応 女性の社会進出とあわせて、男性の地域進出を促していく。</p>

テーマ ・広報・公聴の充実
主な意見 広報が単に情報を提供する媒体にとどまっている。
具体的な提案 市報を見直し、市民参加型の広報とする。 市民活動に関する広報の充実を図り、参加しやすい環境を整備する。

10．実現に向けて / (2) 行政運営
テーマ ・柔軟な組織と意識改革
主な意見 まちづくり事業は多くの課が係わっているため、調整等の問題もあり非効率である。 従来からの縦割りが問題である。 市民が利用しやすいように、体制ともに意識改革を行う必要があるのではないかな。 ある程度の緊張感を持った行政運営が必要ではないかな。
具体的な提案 事業・行政評価制度を導入する。 各事業における費用対効果や評価制度の導入 柔軟に対応できる総合窓口（例：まちづくり課）を設置する。 課に縛られない横断的な窓口をする。 事業プロジェクトごとに組織化する。（課に関係なく） 職員一人一人の意識改革を行っていく。 デスクワークのみでなく、地域に出て、市民と共に汗をかく。 民間の発想・手法を取り入れる。 少数精鋭、無駄のないスリムで効率的な運営
テーマ ・長期的な視点を持った運営
主な意見 継続的な行政運営も大事だが、時代の変化にあわせて柔軟に対応していく必要があるのではないかな。 目先の欲求で次世代に憂いを残すことのないよう、長期的な視点で行政運営を図るべきである。
具体的な提案 予算編成の新たな手法、事業途中の変更や中止の判断なども必要である。

10．実現に向けて / (3) 財政運営
テーマ ・効率的な財政運営
主な意見 政治の動きに左右されすぎると、効率的な財政運営にはならないのではないか。計画的かつ柔軟性のある財政運営を行う必要がある。
具体的な提案 政治に流されない、効率的な財政運営とし、様々なしがらみからの脱却を図る。市民ニーズにあわせた予算の活用を検討する。 ニーズの変化に迅速に対応
テーマ ・新たな財源確保
主な意見 限られた予算を有効的に使うということもあるが、どのように歳入を拡大していくかについて、考える姿勢が乏しいのではないかと。 地方にはアイデア豊かな活動がある。
具体的な提案 村山小麦の生産活動を活発化できるような農業振興施策を実施する。ネーミングライツを採用する。(施設命名権の貸出し)

10．実現に向けて / (4) 広域行政
テーマ ・近隣市との関係強化
主な意見 近隣市との合併も視野に入れておくべきではないか。
テーマ ・横田基地
主な意見 横田基地の軍民共用については、広く市民の意見を聴取するとともに、近隣市町との調整を図りながら推進するべきである。

10．実現に向けて / (5) 情報化
テーマ ・情報の透明化
主な意見 第八小学校では午前5時間制の導入を全国初の試みとして取り組んでいる。
具体的な提案 教育の集い等で発表の場を与えることも必要である。
テーマ ・情報のわかりやすい提供
主な意見 情報などを公開しても、分かりにくければ意味がないのではないかと。
具体的な提案 市民に分かり易い情報データを発信する。 IT化は効率のみで進めていくのではなく、市民の視点で構築していく。 市議会の議事録等を簡単に閲覧できるようにする。

4. 次期基本計画に対する各委員の思いを話してもらいました。

最終回の市民懇談会では、これまでの議論を振り返って、感想や次期基本計画に対する思いを話してもらいました。



<p>第7回の懇談会で 今回の市民懇談会に参加しての感想や、 次期基本計画に対する思いについて、 みなさんに発表してもらい そのコメントをこのページに 掲載したいと思います。</p>	

5. 市民懇談会は、以下のようなスケジュール及び体制ですすめられました。

《市民懇談会の実施経過》

回数	検討内容	開催日
第1回	提案範囲、会議の進め方の確認 3分スピーチ（自己紹介、参加動機など） 会議日程の設定	6月30日（火）
第2回	「項目別計画シート」の見方 グループ分け、グループリーダーの選任 グループ討議（1） グループ討議内容の紹介	7月14日（火）
第3回	グループ討議（2） グループ討議内容の紹介	8月4日（火）
第4回	グループ討議（3） グループ討議内容の紹介	9月8日（火）
第5回	グループ討議（4） グループ討議内容の紹介	10月13日（火）
第6回	市民懇談会提案書（案）の検討	11月10日（火）
第7回	市民懇談会提案書の確認 総合計画策定に向けてひとこと	11月24日（火）

各回、それぞれのグループで出された意見を紹介し、他のグループの検討テーマについても意見が言えるようにしました。

* グループ討議のテーマ

	テーマ	
	Aグループ（都市・生活・産業）	Bグループ（福祉・教育・文化）
グループ討議（1）	土地利用 / 産業	保健・医療 / 福祉
グループ討議（2）	環境・景観 / 都市基盤	教育・文化
グループ討議（3）	防災・安全	交流
グループ討議（4）	全般 / 市民参加・行財政	全般 / 市民参加・行財政

《委員の構成》

(敬称略)

部 会	氏 名	備 考
都市・生活・産業 部 会	石塚 典久	座長、市民公募（南東地区）
	細井 五	武蔵村山市文化協会
	柳下 利治	武蔵村山市クリーンボランティア連絡会
	波多野晃夫	市民公募（北東地区）
	花田 馨	市民公募（南西地区）
	林 喜代三	市民公募（緑が丘地区）
	水野 利根	生涯学習を支援する市民の会
福祉・教育・文化 部 会	原田 英治	副座長、市民公募（北西地区）
	井山 房子	武蔵村山市シルバー人材センター
	堀田 兼光	武蔵村山市体育協会
	加藤 武	武蔵村山市PTA連合会
	細川美知子	武蔵村山市青少年対策地区連絡会
	長田 文男	武蔵村山市民生児童委員協議会
	島田 静江	東京みどり農業協同組合村山地区女性部

